

Ibaraki

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053497

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



8. 茨城県 追補

小幡和男 (〒 306-0622 茨城県坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
obata@nat.pref.ibaraki.jp)

(A) 植物誌

『茨城県植物誌』(鈴木ほか 1981)以後, 県フロラをまとめた印刷物は刊行されていない。ミュージアムパーク茨城県自然博物館(以下, 自然博)では, 県植物誌の改訂を目指し, 2007年に『『新版 茨城県植物誌』作成のための資料の収集及び方法の検討』を刊行するなど作業を進めているが, 具体的なスケジュールはまだ決まっていない。

県フロラに関する調査は, 「総合調査研究」と題して自然博が主体となり1994年より進めている。県内を4地域に区切り, 1地域を3か年調査しているが, 現在2巡目の第3次調査を行っている。2002年以降の成果としては, 『茨城県自然博物館第3次総合調査報告書』(2004), 『同第4次報告書』(2007), 2巡目の第1次調査の成果を掲載した『茨城県自然博物館総合調査報告書 茨城県西部および筑波山周辺地域の菌類』(2009), 『同 茨城県西部および筑波山の維管束植物』(2011), 『同 茨城県西部地域および筑波山・鹿島灘の非維管束植物』(2012)が刊行されている。自然博以外では, 茨城植物研究会による県フロラ研究の成果が, 『茨城植物研究第2号』(2009), 『同第3号』(2010), 『同第4号』(2012)として刊行されている。

県フロラ研究が掲載されている主な逐次刊行物としては, 『茨城県自然博物館研究報告』(自然博), 『茨城生物』(茨城生物の会), 『茨城県高等学校教育研究会生物部会誌』(茨城県高等学校教育研究会生物部)などがあげられる。

県内の市町村が刊行した地域の自然ガイドとしては, 2002年以降『みつかいどうの自然』(現常総市 2003), 『みのりの自然』(現小美玉市 2005), 『波崎の自然』(現神栖市 2005), 『千代田の花・虫・鳥—動植物ガイド—』(現かすみがうら市 2005), 『東海村の自然誌』(東海村 2007), 『日立の自然ガイドブッカー—植物・昆虫・野鳥—』(日立市 2011)などが刊行されている。

2002年以降の個人の刊行物としては, 茨城県の海藻のフロラをまとめた『茨城の海藻—観察観察ガイドブッカー—』(中庭 2008), 霞ヶ浦の水生植物をまとめた『霞ヶ浦の水生植物—1972~1993変遷の記録—』(桜井ほか 2004), 『霞ヶ浦の水草』(レイモン・アサディ 2002)などがあげられる。

(B) 研究機関

2002年以降の新設の施設としては, 2005年に茨

城県が土浦市の霞ヶ浦湖岸に設立した「茨城県霞ヶ浦環境科学センター」があげられる。設置の目的は, 霞ヶ浦の環境保全に関する調査研究に取り組むとともに, 環境学習や市民活動の拠点として, 研究と教育の目的を兼ね備えた施設となっている。

(C) 標本庫

自然博は, 『植物標本目録第1集 鈴木昌友コレクション: 維管束植物』(2000), 『同第2集 維管束植物 (2)』(2001)を刊行し, 維管束植物標本合計52,825点を掲載した。その後, 『同第3集 佐藤正巳コレクション: 地衣類』(2003)において地衣類標本16,531点を, 『同第4集 コスタリカの植物』(2007)で1,084点のコスタリカ産植物標本を掲載した。

自然博に収蔵・登録されている植物標本は, 2013年1月現在で, 全体では130,995点, 維管束植物は94,621点となっている。これらの収蔵標本は, 自然博のホームページ, サイエンスミュージアムネット(S-net), GBIF等で検索することができる。

(D) レッドデータブック

茨城県は, 1997年に維管束植物に関するレッドデータブックとして『茨城における絶滅のおそれのある野生生物(植物編)』を刊行した。

2009年度に, 茨城県生活環境部環境政策課は「茨城における絶滅のおそれのある野生生物種の見直し検討委員会」を設置し, レッドリストの改訂作業にあたった。3か年に及ぶ作業により2012年2月に改訂したレッドリストを発表した。

さらに, 同委員会により改訂したリストに基づいた新版レッドデータブックの作成が行われており, 2013年3月に出版される予定となっている。

なお, 牛久市は2005年に『牛久における絶滅のおそれのある野生生物 植物編(牛久市版レッドデータブック)』, 2006年に『同普及版』を出版している。

(E) 植物群落

県内の植生については, 自然博の『総合調査報告書』に, 地域のフロラリストとともにその概要が掲載されている。また, 前記の『茨城県自然博物館研究報告』をはじめとする刊行物に植生調査の成果等が随時掲載されている。

最近の事業として特筆すべきは「筑波山におけるブナとイヌブナの全個体調査」である。これは筑波山ブナ林保全事業の一環として, 県環境政策課, 自然博, (独)森林総合研究所が共同で実施したもので, 成果は, 県のホームページで公表されている。